

令和5年1月30日

加古川市長  
岡田康裕様

加古川市廃棄物減量等推進審議会  
会長 藤原健史

第4次一般廃棄物処理基本計画について（答申）

令和4年7月11日付で諮問のあった第4次加古川市一般廃棄物処理基本計画につきまして、本審議会において4回にわたって慎重に審議を重ねました。

一般廃棄物処理基本計画は、長期的な視点から廃棄物処理を行っていくための計画であり、加古川市におけるごみ処理及び生活排水処理の指針となるものです。今年度を終期とする現行計画において、ごみ処理については、東播臨海広域市町村圏での広域ごみ処理施設「エコクリーンピアはりま」の供用開始に向けた焼却処理量の削減を目標に掲げられ、大きく達成されています。

今後も、更なるごみ減量や廃棄物の適正な処理を行うことで、循環型社会や脱炭素に向けたごみ処理システムの構築を、また、生活排水処理に関しては、適正な水質保全につながるよう、別添「第4次加古川市一般廃棄物処理基本計画（案）」のとおり答申します。

なお、本計画案を審議する際に、下記のとおり主な意見がありました。今後当該意見に十分配慮していただき、計画を策定、推進していただくよう要望します。

記

- 家庭系ごみについては、燃やすごみだけでなく、燃やさないごみや粗大ごみも含めた更なるごみ減量を目標に、市民一人一人が自ら考え行動するような意識改革を推進されたい。

- 市民へのアンケート結果やごみの組成調査の結果からはリサイクルへの意識が浸透してきていることが伺えるが、今後は、「ごみを出さない」リデュースや「ごみにしない」リユースの2Rを優先するライフスタイルが確立できるよう注力されたい。
- 事業系ごみについては、アフターコロナを見据えた削減を目標とし、全国的な問題となっている食品ロスなどは消費者（市民）との連携による削減を推進されたい。
- 生活排水処理に関しては、令和7年度の公共下水道概成に向け事業整備を進めるとともに、公共用水域の水質保全の観点からも合併浄化槽への転換推進に向けた施策展開を期待したい。
- 災害対策として、避難所に設置される仮設トイレのし尿収集も含め危機管理体制の観点から、現状のし尿収集体制の維持に努められたい。